

日仏会館セミナー 2019  
農への回帰をめぐるユートピアとエコロジー思想  
－日欧比較研究

アルザス人文科学研究所(MISHA)研究プロジェクト(2019年1月～2020年12月)

「農への回帰、そして農の回帰：  
危機に対する食と農をめぐる思想と社会的イノベーションの循環に関する日欧比較研究」

第一回セミナー

責任者：ロランス・グランション(ストラスブール大学ヨーロッパ動態研究所 准教授)

村松 研二郎(ストラスブール大学日本学科 常勤講師)

ポーメール・ニコラ(名古屋大学 准教授 日仏会館・フランス国立日本研究所 協力研究員)

日時：2019年9月2日(月) 10時～19時15分

場所：日仏会館 601会議室 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿3-9-25

リンク：<https://www.mfjtokyo.or.jp/events/bfmfj/20190902.html>

共催：MISHA 研究プロジェクト 2019～2020

フランス日本研究所 - 日仏会館

助成：科研費 若手研究(B) 課題番号 17K13578

本セミナーは、農に還る運動がその基盤とする哲学、思想、ユートピアを日欧の文化的・歴史的次元において探求し、問うことを目的とする。自然および生命の概念は、それらの思想と社会運動の中心に位置する。そのために、本セミナーでは日欧の思想における自然および生命の概念を問い、それらの概念がどのように形成し、循環し、適応しながら社会変化に関与するのかを考える。

近代産業文明の限界と地球環境の持続性がグローバルに問題化される今日、異なる国家間では、問題の解決に向けて普遍的な合意がなされているとは言い難い。2017年11月、184ヵ国の15000人の科学者がBio Science誌において「生態系を生命の連関を維持する許容量を超えた」状態に追いやる危険に対し警鐘を鳴らし、「環境破壊を止める」ためにあらゆる手を尽くすよう政治的責任者に対して求めた(ル・モンド紙、2018年7月20日)。いずれにせよ、なすべき変容は未だになされていない。「政治に自然を引き入れる」(ラトゥール)という行為は、自然をめぐる様々な歴史的・文化的遺産と認識のために、未だに困難が進めがたい。しかし、差異は必ずしも障害ではない。思想は循環し、その発生した文脈を離れて適応し、世界またはローカルな自然とのつながりに働きかける運動とイニシアチブにヒントを与えるのである。

ヨーロッパと日本は、工業化を経験した最初の「旧世界」の地域であり、その工業化は

一定の反動的な運動を引き起こし、時として土へ還るための意思を呼び起こした。これらの運動と土への回帰の衝動は、はたして反動的なのか革新の原動力となりうるのか? 「危機」の概念は、どのように運動の本質を光を当てるのであろうか?

本セミナーでは、エコロジー、生命、環境の維持管理をめぐる日本とヨーロッパ(特にフランス、ドイツ)で生まれた思想家と思想の系譜を取り扱う研究者が一堂に介する。それらの思想は、それぞれの国の文脈において、またはそれを超えて、アグロ・エコロジーに関わる運動または様々な「帰農」の形に影響を与えるものである。

このセミナーは、日仏間のビデオ会議による共同開催の形をとり、日仏会館(東京)とアルザス人文科学研究所(ストラスブール)にて同時開催される。そこでは、土とのつながりをめぐる思想をよりよく知るために、両国の異なる学問領域(地理学者、社会学者、人類学者、歴史学者、哲学者)の研究者が一堂に会し、単なる比較を越え、日欧間の文化間対話と思想循環に関心に向ける。福岡がシュタイナーに出会う時、はたしてどんな会話がなされるだろうか?



© Kenjiro Muramatsu

## プログラム

**10h -10h10：開会の挨拶(ニコラ・ボーメール、村松研二郎)**

**10h10-11h15：第一部「日欧における自然、大地、生命」**

司会：レミ・スコシマロ(日仏会館・トゥールーズ大学)

10h10-10h35：ニコラ・ボーメール(名古屋大学)、「日本の思想からテロワール概念を再考する：和辻哲郎の風土論とメディアンスおよび地理学性概念」

10h35-11h00：村松 研二郎(ストラスブール大学)、「戦前日本における4人の知識人による農業ユートピア創造の経験」

11h00-11h15：討論

(15分休憩)

**11h30-13h00 第二部：農と食をめぐるダイナミクス - 比較的展望**

司会：ニコラ・ボーメール

11h30-11h55：神門善久(明治学院大学)「日本農業をめぐる虚像と実像」(英語)

11h55-12h20：アンノ・イェンシュ(ドイツ日本研究所)「日本農業レジームにおける制度変化：農業地域の役割を考える」(英語)

12h20-12h45：平口嘉典(女子栄養大学)「日本の農村における地域振興活動の動向と展望」(英語)

12h45-13h00：討論

13h00-14h20：昼食

**14h20-15h45(仏時間 7h20-8h45)：第三部「日本の有機農業と近代農業の歴史」(日仏ビデオ会議)**

司会：村松 研二郎

14h20-15h00(仏 7h20-8h00)：榊瀧俊子(元・淑徳大学)「日本の有機農業運動の特殊性と普遍性：欧米との比較から」(日本語・仏語通訳付き)

15h00-15h25(仏 8h00-8h25)：竹沢尚一郎(国立民族学博物館)「農学と民俗学の間で - 柳田国男と横井時敬」(仏語)

15h25-15h45(仏 8h25-8h45)：討論

(15分休憩)

**16h00-18h30(9h00-11h30、フランス)：第四部(ストラスブールから)「大地をめぐる思想」(日仏ビデオ会議)**

16h00-16h25(仏 9h00-9h25)：ロランス・グランション(ストラスブール大学)「土を再発見し、地球の消滅に抵抗する - 非反動的な帰農思想」

16h25-16h50(仏 9h25-9h50)：黒田昭信(ストラスブール大学)「自然の創造」

16h50-17h05(仏 9h50-10h05)：討論

(15分休憩)

17h20-17h45(仏 10h20-10h45)：オレリ・コネ(ストラスブール大学)「ルドルフ・シュタイナーのスピリチュアル・エコロジー - 知識、想像、実践と政治と自然」

17h45-18h10(仏 10h45-11h10)：シリアン・ピットゥルー(ジュネーブ大学)「田中正造と石川三四郎におけるエコロジー思想」

18h10-18h30(仏 11h10-11h30)：討論

**18h30(仏 11h30)：ビデオ会議終了、結語および閉会の挨拶(東京)**

**フランス(MISHA、ストラスブール大学)における最終セッション**

14h - 15h30 日仏会館における第一部・第二部のビデオ視聴および討論